

第 6 回 JCVP(日本獣医病理学専門家協会)学術集会
スライドフォーラム

第 59 回獣医病理学研修会
出題標本 参考抄録集

2019 年 3 月 28 日(木), 29 日(金)

会場及び研修会担当機関

会場 〒183-0055
東京都府中市府中町 2-24
ルミエール府中・コンベンションホール飛鳥
TEL:042-361-4111

担当機関 〒183-0053
東京都府中市天神町 3-16-2 パレススメール 1 階南側
ノーバウンダリーズ動物病理(ACVP 日本人会・本部)
TEL:080-8904-3988(三井)、042-303-9058/0120-71-4921(下ノ原)
FAX:050-3153-0639 (三井)
担当機関代表:三井一鬼 担当:小嶺美紗、下ノ原望
E-mail:nozomi-shimonohara@idexx.com

* 本研修会の参加には、第 6 回日本獣医病理学専門家協会学術集会への参加登録が必要です。

参加者、発表者、座長の皆様へ

参加者の皆様へ

1. 研修証: 本証の発行を希望される方は本抄録集に添付の証書に氏名を記入し、研修会当日「受付」に示し「日本獣医病理学専門家協会理事長之印」の捺印を受けて下さい。
2. 討論: 座長の司会によりフロアからの質疑および事前の用紙による質問・意見を中心に行います。「質問・意見用紙」は本抄録の末尾に添付してありますのでコピーしてお使い下さい。なお、この用紙は当該演題開始の30分前までに「受付の意見箱」に投函して下さい。
3. 標本配布先: 標本出題機関と有料配布機関を次頁に列記してあります。会員の方は鏡検の便宜を図って下さい。

発表者の皆様へ

1. 時間: 討論時間確保のため発表は5分以内とします。討論時間は座長に一任下さい。
2. 発表: 会場のパソコン等の使用環境は以下の通りですのでご留意ください。
パソコン : Windows PC (Macintosh は用意しておりません) OS : Windows 7
スライドのサイズ: **ワイド画面(16:9)**
解像度 : (1920 x 1080)
プレゼンテーション用ソフト: PowerPoint 2007・2010・2013・2016
フォント : OS (Windows7) 標準
3. ファイル: 発表用 Power Point ファイルはファイル名を「演題番号 機関名 (例: 1230 ACVP 日本人会)」として USB メモリに保存し、会場入り口 PC 受付まで下記時間に直接お持ちください。
3月28日午前発表の演題(演題 No.1220~No.1227) 3月28日 8:30~9:30
3月28日午後発表の演題(演題 No.1228~No.1235) 3月28日 8:30~12:30
3月29日発表の演題(演題 No.1236~No.1243) 3月28日 8:30~17:00
4. スライド: 英文表記或いは英文・和文併記をお願いします。
5. 議論を円滑に進めるため、できるだけ病理組織学的診断名と疾病名を分けた記載をお願いします。

◇ 病理組織学的診断名/形態学的診断名 Histopathological/Morphologic Diagnosis
HE 標本、特殊染色により分かる診断名

例) び慢性、重度、肉芽腫性腸炎、細胞質内抗酸菌を伴う

Diffuse, severe, granulomatous enteritis with intracytoplasmic acid-fast bacilli

◇ 疾病診断名/疾病名 Etiologic Diagnosis/Name the Disease

免疫染色、培養、ウイルス分離、PCR、電子顕微鏡などの追加検査により分かる原因と病変の部位からなる診断名(疾病診断名)/よく使われる病名(疾病名)

例:) マイコバクテリウム性腸炎(疾病診断名)/ヨーネ病(疾病名)

Mycobacterial enteritis/ Johne's disease

座長の皆様へ

1. 司会: 各セッションに1名の座長をお願いしています。
2. 討論: 討論時間の配分は座長に一任されますが、フロアからの質疑、紙面による質疑、発表者からの最終診断・希望討議事項などを総括し、終了時間を厳守して進行して下さい。

第 59 回獣医病理学研修会標本配布先機関

出題機関	電話番号	有料標本配布機関	電話番号
優先出題機関		第一三共(株)	03-5696-9580
帯広大	0155-49-5362	アステラス製薬(株)	029-829-6514
酪農大	011-388-4906	(株)大塚製薬工場	088-684-2349
北海道大	011-706-5192	大塚製薬(株)	088-665-2126
北里大	0176-23-4371	みどりの獣医病理研究会	029-879-5619
岩手大	019-621-6216	アイデックス ラボラトリーズ(株)	0120-71-4921
東京大	03-5841-5401	大正製薬(株) 安全性・動態研究所 安全性研究室	048-669-3035
農工大	042-367-5874	マルピー・ライフテック(株)	072-753-0335
日獣大	0422-31-4151	日精バイリス(株) 滋賀研究所	0748-63-5251
麻布大	042-769-1628	(株)ボゾリサーチセンター 御殿場研究所 病理部	0550-82-9914
日大	0466-84-3624	連雀堂研究所	090-5818-7549
岐阜大	058-230-6610	日本たばこ産業(株)医薬総合研究所 安全性研究所	0463-81-1277
大阪府大	072-463-5342	日本ベーリンガーインゲルハイム(株)	078-306-4500
鳥取大	0857-31-5422	旭化成ファーマ(株)	0558-76-8091
山口大	083-933-5891	(株)新日本科学 安全性研究所	099-294-2600
宮崎大	0985-58-7271	科研製薬(株)	054-635-2939
鹿児島大	099-285-8668	大鵬薬品工業(株) 安全性研究所	088-665-5866
動衛研・北海道	011-851-2168	小野薬品工業(株)	0776-82-6161
動衛研・つくば	029-838-7774	富士フイルム(株)	0465-86-1732
日生研	0428-33-1054	(株)LSIメディエンス 熊本研究所	0964-23-5111
JRA 総研	0285-44-0090	第一三共 RD ノバーレ(株)	03-5696-8301
LSI メディエンス	0479-46-2871	(株)鎌倉テクノサイエンス	0467-32-9676
摂南大	072-866-3162	日本新薬(株)	075-321-9165
		生化学工業	042-563-5809
公募出題機関		塩野義製薬(株)	06-6331-7011
岡山理科大	0898-52-9000	国立医薬品食品衛生研究所	044-270-6651
ACVP 日本人会	080-8904-3988	(株)安評センター	0538-58-1266
計 24 機関		味の素(株)	044-210-5846
		中外製薬(株)	0550-87-9343
		(株)日本バイオリサーチセンター	058-392-6222
		トーアエイヨー(株)	024-542-3143
		計 31 機関(1月25日時点申込順)	

プログラム

3月28日(木)	出題標本	座長
9:30～10:00		
No. 1220	イヌの脳(帯広大)	チェンバース ジェームズ(東大)
No. 1221	ヨツユビハリネズミの脳(北大)	チェンバース ジェームズ(東大)
10:00～10:30		
No. 1222	ラットの脳・脊髄(LSI メディエンス)	山口裕子(ボゾリサーチセンター)
No. 1223	ネコの脊髄(山口大)	山口裕子(ボゾリサーチセンター)
10:30～11:00		
No. 1224	イヌの心基底部腫瘍(大阪府立大)	阿野直子(マルピー・ライフテック)
No. 1225	インコの胸腔内腫瘍(麻布大)	阿野直子(マルピー・ライフテック)
11:00～11:30		
No. 1226	イヌの肺(日獣大)	村上智亮(農工大)
No. 1227	ウマの肺(酪農大)	村上智亮(農工大)
<休憩/昼食/スライドセミナー 11:30～13:30 (スライドセミナー 12:00～13:00)>		
13:30～14:00		
No. 1228	ネコの肺(岩手大)	井澤武史(大阪府立大)
No. 1229	シロテテナガザルの肺(日大)	井澤武史(大阪府立大)
14:00～14:30		
No. 1230	イヌの肺(ACVP 日本人会)	平井卓哉(宮崎大)
No. 1231	ウシの扁桃(鹿児島大)	平井卓哉(宮崎大)
14:30～15:00		
No. 1232	ブタの舌(動衛研・つくば)	町田雪乃(日獣大)
No. 1233	イヌの舌(宮崎大)	町田雪乃(日獣大)
15:00～15:30		
No. 1234	イヌの空腸(東京大学)	松田一哉(酪農大)
No. 1235	ウマの空腸(JRA)	松田一哉(酪農大)
3月29日(金)	出題標本	座長
9:30～10:00		
No. 1236	イヌの盲腸(鳥取大)	近藤広孝(日大)
No. 1237	ゾウの肝臓(岡山理科大)	近藤広孝(日大)
10:00～10:30		
No. 1238	ニホンザルの肝臓(岐阜大)	畑井仁(鹿児島大)
No. 1239	ブタの腎臓(日生研)	畑井仁(鹿児島大)
10:30～11:00		
No. 1240	ウシの腎臓(動衛研・支所(北海道))	相原尚之(麻布大)
No. 1241	ブタの膀胱(農工大)	相原尚之(麻布大)
11:00～11:30		
No. 1242	イヌの皮下組織(摂南大)	佐々木淳(岩手大)
No. 1243	イヌの皮下組織(北里大)	佐々木淳(岩手大)

確定診断記入欄

	病理組織学的診断名/形態学的診断名	疾病診断名/疾病名
No. 1220		
No. 1221		
No. 1222		
No. 1223		
No. 1224		
No. 1225		
No. 1226		
No. 1227		
No. 1228		
No. 1229		
No. 1230		
No. 1231		
No. 1232		
No. 1233		
No. 1234		
No. 1235		
No. 1236		
No. 1237		
No. 1238		
No. 1239		
No. 1240		
No. 1241		
No. 1242		
No. 1243		

出題標本参考抄録

犬の脳

帯広畜産大学

標本: 大脳、15%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: 犬、スタンダード・プードル、避妊雌、12 歳 1 ヶ月齢

臨床事項: 重積するてんかん様発作を主訴に本学動物医療センターを受診し、MRI 検査では脳水腫が認められた。同日(死亡日 45 日前)の血液生化学検査では、ALT 30 μ /L、AST 29 μ /L、ALP 191 μ /L、Glu 45 mg/dL、T-cho 288 mg/dL、BUN 14.4 mg/dL、Cre 0.70 mg/dL、CRP 0.2 μ g/dL を示した。その後、全身状態が徐々に悪化し、斃死した。

肉眼所見: 大脳脳回の両側性の軽度腫脹、肺水腫、胃・直腸内異物(大量のヘアゴムやビニール)、僧帽弁の軽度の肥厚、脾臓内小腫瘍、両側扁桃の腫大、および右内股部における皮膚腫瘍が認められた。ホルマリン固定後の大脳断面では、皮質の白色化が特に側頭葉と頭頂葉で観察された。

Cerebrum of a Dog

Obihiro University

Specimen: Cerebrum, 15% neutral buffered formalin fixation, HE stain.

Species: Dog, standard poodle, spayed female, 12-years-1-month-old

Clinical information: The dog was referred to the Veterinary Teaching Hospital of Obihiro University of Agriculture and Veterinary Medicine due to series of multiple epilepsy-like seizures, and the MRI scan revealed diffuse brain edema. Blood biochemistry test conducted on the same day (45 days before death) revealed the following values: ALT 30 μ /L, AST 29 μ /L, ALP 191 μ /L, Glu 45 mg/dL, T-cho 288 mg/dL, BUN 14.4 mg/dL, Cre 0.70 mg/dL, CRP 0.2 μ g/dL. The general condition of the animal gradually deteriorated, and eventually died.

Gross findings: There were mild bilateral swelling of the cerebral gyri, pulmonary edema, foreign bodies in the stomach and rectum (large amounts of hairbands and plastic), mild thickening of the mitral valve, small intra-pancreatic mass, bilateral swelling of the tonsils, and a skin mass in the right inguinal region. On the cut surfaces of the formalin-fixed cerebrum, whitish discoloration of the cortex was observed especially in the parietal and temporal lobes.

ヨツユビハリネズミの脳

北海道大学

標本: 大脳、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: ヨツユビハリネズミ (*Atelerix albiventris*)、雄、7ヵ月齢

臨床事項: 2018年7月上旬より下痢、ふらつきが出現し、7月中旬より食欲不振および起立困難となった。8月上旬には左後肢に褥瘡が認められるようになり、8月11日に死亡した。

肉眼所見: 剖検時には、重度に消瘦し、左後肢の下腿から肢端にかけて壊疽が認められた。腸間膜には $2.5 \times 1.5 \times 1.5$ cm の淡赤褐色腫瘤が1個認められ、その一部は膵臓や回腸の漿膜と癒着していた。脾臓は中等度に腫大し、肺には暗赤色巣が散在性に認められた。脳および脊髄には肉眼的に特に異常は認められなかった。

参考所見: 病理組織学的検査により腸間膜腫瘤は組織球肉腫と診断された。また、組織球肉腫の転移が肝臓、脾臓、心外膜、肺、小腸、膵臓に認められた。

Cerebrum of a four-toed hedgehog

Hokkaido University

Sample: Cerebrum, fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

Animal: Four-toed hedgehog (*Atelerix albiventris*), male, 7 months old.

History: Diarrhea and unsteadiness appeared in the beginning of July 2018, and this animal showed anorexia and dysstasia from the middle of July. Decubitus was found on the left hindlimb in the beginning of August, and the animal died on 11th August.

Gross findings: At necropsy, severe emaciation and gangrene of the left lower thigh were observed. There was a light reddish-brown mass ($2.5 \times 1.5 \times 1.5$ cm) in the mesentery, which adhered to the serosa of ileum and pancreas. The spleen enlarged moderately, and the lung had multiple dark red foci. There was no macroscopic change in the brain and spinal cord.

Referential findings: The mesenteric mass was histopathologically diagnosed as histiocytic sarcoma. Metastasis of histiocytic sarcoma was found in the liver, spleen, epicardium, lung, small intestine, and pancreas.

No.1222

ラットの脳・脊髄

(株)LSIメディエンス

標 本:脳・脊髄、10%リン酸緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物:ヌードラット(F344/NJcl-rnu/rnu)、雄、8 週齢

臨床事項:通常飼育された無処置動物で、一般状態に異常は認められなかった。

肉眼所見:肉眼所見は認められなかった。

No.1222

Brain and spinal cord of a rat

LSI Medience Corporation

Specimen: Brain and spinal cord, 10% neutral buffered formalin-fixed, HE stain

Animal: Nude rat (F344/NJcl-rnu/rnu), male, 8 weeks old

History: The animal was housed and cared for normally, and had received no prior treatment. The animal showed no clinical abnormalities.

Gross findings: No gross findings were observed in any organ or tissue.

ネコの脊髄

山口大

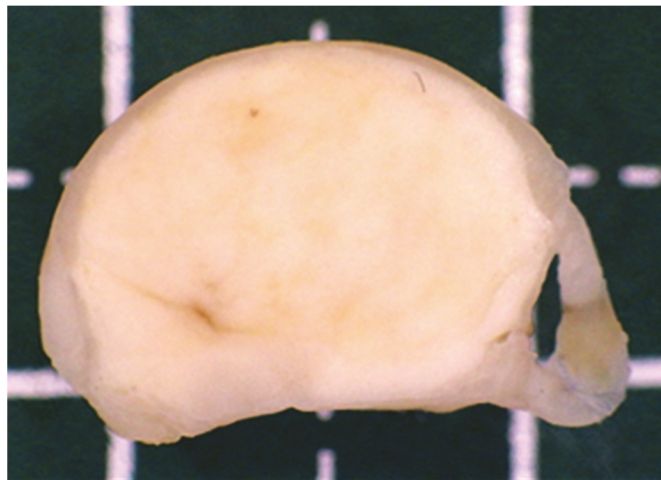
標 本: 脊髄、10%ホルマリン固定、HE 染色

動 物: ネコ、アメリカン・ショートヘアー、去勢雄、13 歳

臨床事項: ふらつき、および左前肢の麻痺を主訴に山口大学動物医療センターに来院した。造影 MRI 検査では、脊髄内(C6-C7)に造影効果のある腫瘤状病変が確認された。その後、放射線治療が続けられたが腫瘤はわずかに縮小するのみで症状の改善は認められなかった。ふらつきが見られてから約 1 年後に斃死し病理解剖に供された。

肉眼所見: 脊髄の断面では C7-Th6 において脊髄灰白質が消失し、白色の組織に置換されていた。

参考所見: 他の臓器には、胼島アミロイド症、陳旧化した心筋梗塞巣、小腸における原虫(コクシジウムを疑う)の感染が見られた。



脊髄(C7)断面の肉眼像

Spinal cord of a dog

Yamaguchi University

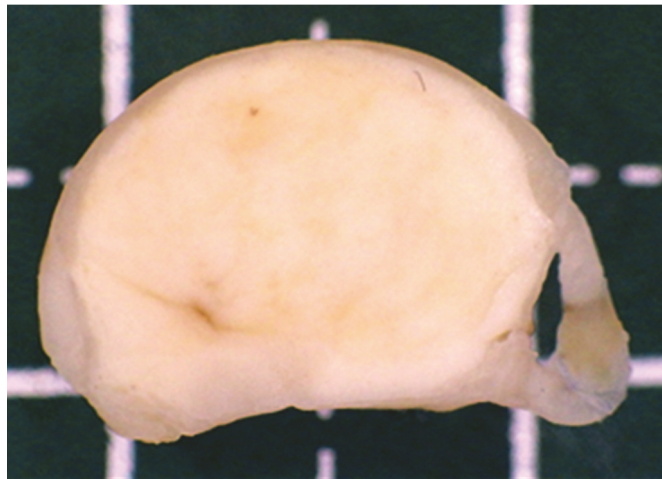
Specimen: Spinal cord, fixed in 10% formalin, HE stain

Animal: Cat, American Shorthair, male, castrated, 13-years-old

History: A cat exhibiting progressive neurological signs such as wobbling and paralysis of left forelimb were presented to Yamaguchi University Animal Medical Center. Contrast-enhanced MRI revealed a mass lesion with enhanced contrast within the spinal cord from C6 to C7. Radiation therapy was applied but not effective. After a year when the neurological signs started, the animal was dead and presented for necropsy.

Gross findings: On cut surface, gray matter of spinal cord was replaced with white tissue between C7 to Th6.

Referential findings: In other organs, amyloidosis of pancreatic islet, old cardiac infarct of left ventricle, and intestinal protozoa infection (coccidiosis suspected) were found.



Transverse section of spinal cord (C7)

犬の心基部腫瘍

大阪府立大学

標 本:心基部腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE染色

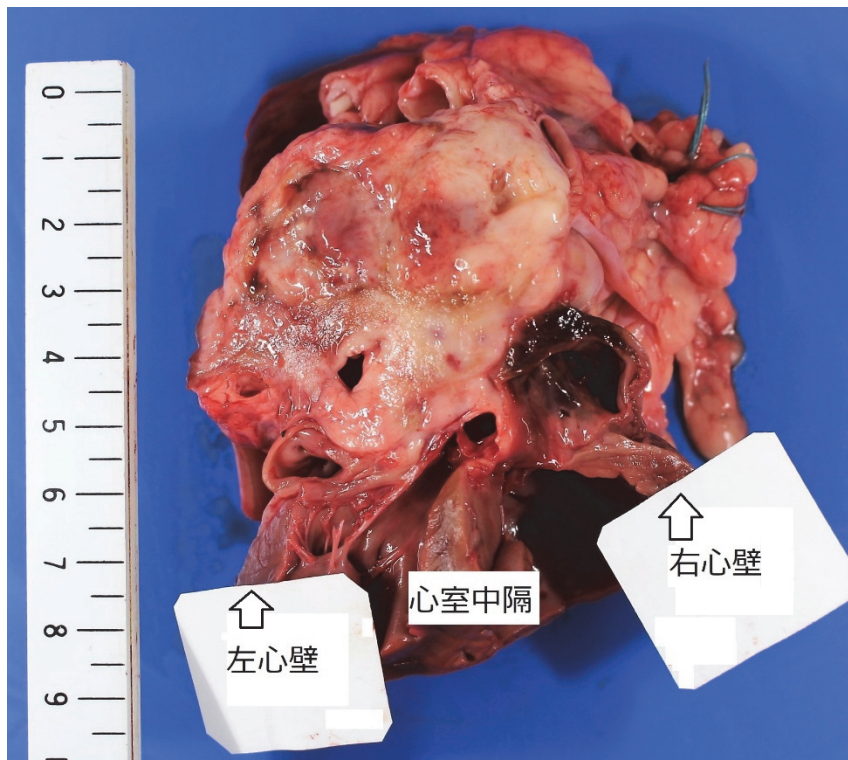
動 物:犬、フレンチブルドッグ、未避妊メス、11歳8か月齢、体重10.3kg

臨床経過:2017年11月28日、腹部腫脹の主訴にて近医を受診し、12月8日にX線検査と心エコー検査で心基部腫瘍が疑われたため、12月15日に本学獣医臨床センターを受診。初診時のCT検査では、心臓背側に軟部組織陰影が認められた。また、腹水貯留、縦隔リンパ節、胸骨リンパ節の腫大が認められた。2017年12月19日～2018年1月24日、放射線治療を行ったが、腫瘍の体積に変化はなかった。一時的に腹水貯留は改善したが、2018年4月17日に再度、腹水が貯留した。

同年7月12日から体調が悪化し(近医では肺水腫との診断)、7月18日に死亡した。翌日に剖検を行った。

剖検所見:腫瘍は12.5×6.5×6.0cm大で、断面は灰白色充実性であった。肺では腫瘍の転移(右後葉背側、0.6×0.6cm大、2箇所)、(左後葉腹側、0.4×0.4cm大、1箇所)がみられた。

参考所見:組織学的には、右肺後葉背側と左肺後葉腹側に心基部の腫瘍細胞の転移が確認された。



A mass at the base of heart in a dog

Osaka Prefecture University

Specimen: A mass at the base of heart, 10% neutral buffered formalin, HE stain

Animal: Dog, French Bulldog, female, 11 years and 8 months of age, 10.3 kg

History: The dog was presented in an animal clinic with abdominal distension, and a base of heart mass was detected by X-ray and echocardiography on 8th Dec in 2017. The dog was referred to Veterinary medical center at Osaka Prefecture University on 15th Dec. Computed tomography revealed a mass with soft tissue density at the dorsal of heart. The dog had abdominal retention by ascites and swelling of mediastinal and parasternal lymph nodes.

Radiation therapy was performed from 19th Dec to 24th Jan in 2018. The mass volume didn't change. The ascites retention improved temporarily, however recurred abdominal retention from 17th Apr.

The condition had gotten worse (diagnosed as pulmonary edema) since 12th Jul. The dog died on 18th Jul and autopsy was performed on the next day.

Autopsy findings: The mass $12.5 \times 6.5 \times 6.0$ cm in size was found. The mass was solid and the cut surface was whitish. Metastatic foci were seen in the lungs (dorsal of right lung, 0.6×0.6 cm, two spots and ventral of left lung, 0.4×0.4 cm, one spot).

Reference: Histopathologically, metastasis of neoplastic cells was seen in the lungs (dorsal of right lung and ventral of left lung).

インコの胸腔内腫瘍

麻布大学

標本: 胸腔内腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: オカメインコ (*Nymphicus hollandicus*)、雌、1歳9ヵ月

臨床事項: 呼吸器症状を主訴に動物病院を受診。抗生剤による治療を行うものの、治療への反応は乏しく、呼吸器症状の悪化と体重減少がみられた。初診から 20 日後に死亡。

肉眼所見: 右肺を背側に圧排し、右胸腔を占拠する 4×2.5cm 大の腫瘍を認めた。腫瘍の断面は白桃色充実性を呈した。

Intrathoracic mass in a cockatiel

Azabu University

Specimen: Intrathoracic mass fixed in 10% neutral buffered formalin and HE stain

Animal: Cockatiel (*Nymphicus hollandicus*), female, 1 year 9 months of age

History: A cockatiel underwent medical examination owing to signs of respiratory distress. It was treated with antibiotics; however, it showed no response to treatment and suffered respiratory insufficiency and weight loss. It died 20 days after the first medical examination.

Gross findings: A mass measuring 4 cm × 2.5 cm was detected in the right thoracic cavity, which had displaced the right lung lobe dorsally. The cut surface of the mass was pinkish-white and solid.

犬の肺

日本獣医生命科学大学

標本: 肺、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: 犬、柴、避妊雌、2歳9か月齢

臨床事項: 1ヵ月間の努力性呼吸を主訴に日本獣医生命科学大学付属動物医療センターを来院。CT 検査では肺全域に多発性に不整な結節が認められた。左肺前葉の一部が切除され、微生物学および病理学的検査を実施した。手術27時間後、安楽死された。病理解剖は実施されなかったが、左肺前葉前部の一部のみが採取された。

肉眼所見: 全域に硬結感を有する径5mm大の灰白色結節が多発していた。提出標本は安楽死後採取された肺組織である。

Lung of a dog

Nippon Veterinary and Life Science University

Specimen: Lung, 10% neutral buffered formalin, HE stain.

Animal: A 2-year and 9-month-old neutered female Shiba dog.

History: The dog with labored breathing during 1 month was presented to the Veterinary Medical Teaching Hospital of Nippon Veterinary and Life Science University for detailed examination, including CT examination and pulmonary biopsy. Detailed CT examination detected multiple irregular nodules in the lung. A part of left cranial lobe of lung was removed surgically for histopathological and microbiological examination. Twenty-seven hrs after the pulmonary excision, the dog was euthanatized. The left cranial lobe of lung was collected, although necropsy could not be performed.

Gross findings: Multiple nodules, measuring 5 mm in diameter, were firm and homogenously grayish white in color. The submitted sections are pulmonary tissue collected after euthanasia.

馬の肺

酪農学園大学

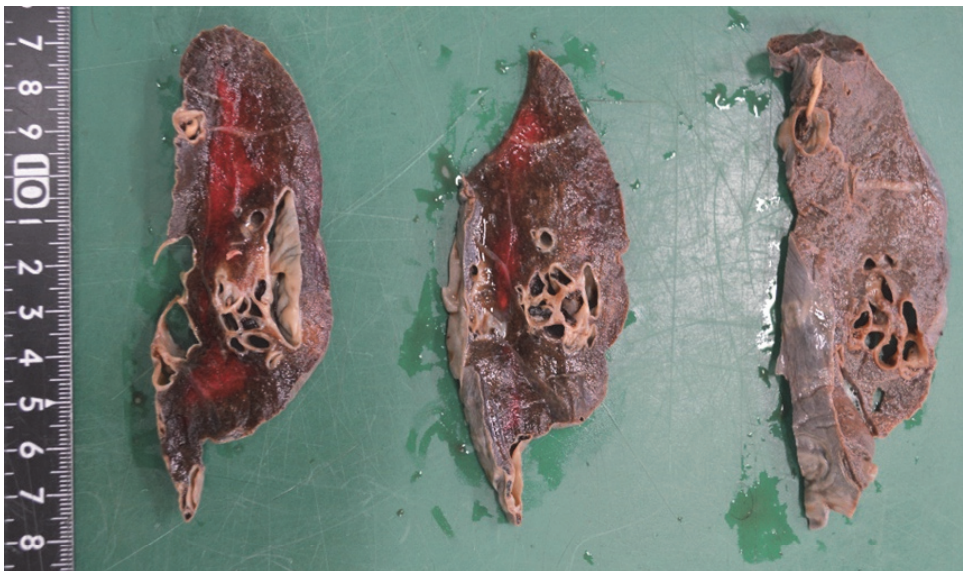
標 本:肺(左肺前葉)、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物:ウマ、サラブレッド、雌、24 歳齢

臨床事項:馬房内で斃死した状態で発見された。斃死する数日前より呼吸状態が悪くなり、鼻出血が認められていた。

剖検所見:気管支内には泡沫ならび血様液が貯留し、左肺前葉から後葉前部領域にかけて出血が認められた。気管支食道動脈から左肺前葉に流入する気管支動脈は拡張、蛇行し、左肺前葉の背側ならび腹側面では拡張し蛇行した複数の血管が走行していた。また、同葉の剖面において、流入する拡張した血管は多嚢胞性から一部分葉状の病変を形成していた。頭蓋底ならび脳底部には出血が認められた。その他、両手根関節における変形性関節症と両前肢の慢性蹄葉炎が認められた。

備 考:提出標本は左肺前葉剖面で認められた多嚢胞性病変を含む組織より作製したものである。



左肺前葉の固定後剖面

Lung of a horse

Rakuno Gakuen University

Specimen: Lung (anterior lobe of left lung), fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

Animal: Horse, Thoroughbred, female, 24-year-old.

History: The horse was found dead in the stall. Worse breathing state was noticed for a few days before death, and nose bleeding was also seen.

Autopsy findings: Foam and hemoid fluid accumulated in the bronchi, and pulmonary hemorrhage was observed in anterior lobe and anterior region of the posterior lobe of the left lung. The bronchoesophageal artery, and bronchial artery flowing into the left anterior lobe, were dilated tortuously, and the run of the dilated tortuous blood vessels were seen at the dorsal and ventral surface of the lobe. The cut surfaces of the lobe revealed that the dilated artery formed multicystic and partially lobulated lesions. Hemorrhage was observed in the skull base and base of the brain. The osteoarthritis of both carpal joint and the chronic laminitis of both forelimb were also observed.

Remarks: Submitted specimen was resected from the left anterior lobe tissue including multicystic lesion.



The cut surface of the anterior lobe of the left lung after fixation.

ネコの肺

岩手大学

標 本:肺、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物:ネコ、エキゾチックショートヘア、雄、4 歳

臨床事項:本例は某研究施設で飼育されていた1頭で、横臥した状態で発見された。頭部を除く全身の被毛は皮膚糸状菌症の治療のため剃毛されていた。低体温、徐脈、意識混濁、高度脱水がみられたため、輸液投与を行ったが、7日後に死亡した。

肉眼所見:栄養状態は不良で、重度に消瘦していた。四肢の肉球には潰瘍が形成されていた。肺は湿潤で、左肺前葉には径 2 cm に至る出血巣が散在していた。

Lung of a cat

Iwate University

Section: Lung, 10% neutral buffered formalin-fixed, HE stain.

Animal: Cat, exotic shorthair, male, 4 years old.

History: This case was one of cats kept in a research institute. The cat was found recumbent with hypothermia. Hair coat on the body has been shaved off except on the head for treatment of dermatophytosis. As the cat also had bradycardia, clouding of consciousness and dehydration, the animal was treated with intravenous dextrose infusion. Although there was a modest improvement in symptoms, he died 7 days later.

Gross findings: The carcass was in poor nutritional condition with minimal body fat stores (severe emaciation). Cutaneous ulcers were noted on the footpad of four extremities. Lung revealed mild edema and hemorrhagic foci, up to 2 cm in diameter, were scattered in the cranial lobe of left lung.

シロテテナガザルの肺

日本大学

標 本:肺、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物:シロテテナガザル(*Hylobates lar*)、雄、10 歳齢

臨床事項:発咳および粘性鼻汁が認められ、活力および食欲の低下を示した。翌日に抗生剤を投与したが、第3病日に死亡が確認され、動物園内にて剖検を行った。一部組織が当研究室へ送付され、病理組織学的検索を行った。

肉眼所見:全ての肺葉はび漫性に暗赤色であり、硬度を増していた。

No.1229

Lung of a White-handed Gibbon

Nihon University

Specimen: Lung, fixed in 10% neutral buffered formalin, H&E stain.

Animal: White-handed gibbon (*Hylobates lar*), male, 10-year-old.

History: The White-handed gibbon presented with coughing and nasal viscous discharge and anorexia. Though antibiotics were administered, the patient died in the morning on hospital day 3, and a necropsy was performed by clinicians at the zoo. Selected tissue samples were submitted to Nihon University for histopathology. This is a “necropsy in a jar” case.

Gross findings: All lung lobes were diffusely dark red and consolidated.

犬の肺

ACVP 日本人会 (JaGA)

標 本: 肺、ホルマリン固定、HE 染色

動 物: 犬、カニンヘンダックスフンド、避妊済みメス、1 歳 6 か月 (マンションの室内飼)

臨床情報: 飼い主がテフロン®加工のフライパンを火にかけたまま外出し、12 時間後に帰宅。飼い主の帰宅時、犬には呼吸器症状は見られなかったが、食欲低下がみられた。徐々に元気消失し、呼吸器症状がみられたため、1 日経ってから動物病院を受診。体温は 37.0°C、軽度脱水、呼吸促進で、水泡音が聴取された。血液検査では PCV の上昇(62.5%)、軽度の好中球増多(14670/ μ)と軽度の好酸球減少(100/ μ)を伴う総白血球数の軽度増加(17270/ μ)、CRP の顕著な上昇(>20 mmg/dl)、ALP の軽度上昇が認められた。胸部レントゲンでは肺野全体にすりガラス状陰影がみられた。ポリテトラフルオロエチレン(PTFE)中毒を疑い治療を行ったが、第 23 病日目に死亡。病院にて肺と心臓を採取し、病理検査を行った。

肉眼所見: ホルマリン固定済みの肺と心臓が一緒になった状態で提出された。肺はび漫性に暗赤色で硬く充実性で、含気は見られない。気管粘膜はび漫性に暗赤色を呈する。肉眼的に心臓には著変は見られなかった。

Lung from a dog

Japanese group of ACVP (JaGA)

Specimen: Lung, formalin-fixed and HE stained

Signalment: A 1.5 year-old, female spayed Dachshund. Indoor only.

History: This dog was kept in a small apartment when the owner left, forgetting to turn off the stove, and a Teflon® pan was left on the top. The owner returned 12 hours later. The dog did not show any respiratory signs at that time, but she had reduced appetite. Gradually she lost her vigor and started to show respiratory signs, and the owner brought her to a regional veterinary clinic. Her temperature was 37.0°C, and she had mild dehydration and increased respiratory rate. Crackles were auscultated in the lung fields. A CBC showed increased PCV (62.5%) and mild leukocytosis (1,7270/μ) characterized by neutrophilia (1,4670/μ) and eosinopenia (100/μ), and biochemistry revealed markedly increased CRP (>20mg/dl) and mildly increased ALP. On thoracic radiographs, diffuse ground-glass opacities were observed in both lungs. PTFE toxicity was suspected, and supportive care was undertaken. The patient died 22 days after hospitalization (23days after the incidence). Necropsy was performed at the hospital and formalin-fixed lungs and heart were submitted for histopathological examination.

Gross findings: Formalin-fixed lungs with heart were submitted. The lungs were diffusely dark red, consolidated, and firm. Mucosa of the trachea was diffusely dark red. The heart was grossly unremarkable.

牛の扁桃部腫瘤

鹿児島大学

標 本:左側扁桃部腫瘤、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物:牛、黒毛和種、雌、13 ヲ月齡

臨床事項:鼻から膿のようなものが流出しているのを開業獣医師が発見した。後日、本学獣医師が診察したところ、両側の鼻孔から食渣が流出しており、口腔の異常を疑って消炎剤などで治療したが改善せず、剖検に供された。

肉眼所見:左口蓋扁桃に隣接して 11×7×4.5 cm の有茎性腫瘤が認められた。腫瘤表面は暗赤色から淡赤色を呈し、黄緑色滲出物が付着していた。断面は軽度に膨隆して水腫性を呈し、白色から淡赤色、充実性であり、線維性結合織で区画されていた。また、一部に膿が認められた。

参考所見:軽度の化膿性気管支肺炎と、幽門隆起粘膜の潰瘍が認められた。

Tonsilar nodule in a cow

Kagoshima University

Specimen: Left tonsilar mass, 10% neutral buffered formalin-fixed, HE stain

Animal: Cow, Japanese black, female, 13 months old

History: The cow was referred to the Kagoshima University Veterinary Teaching Hospital for pus-like nasal discharge. On physical examination, food debris, not pus, was discharged from both the nostrils. A clinician suspected oral disorder and treated her with anti-inflammatory and other drugs for about five months. Finally she was autopsied because of poor prognosis.

Gross findings: An 11 × 7 × 4.5 cm sized pedunculated mass was adjacent to the left tonsil. The surface was dark to pale red with yellow-green exudate. The cut surface was mildly elevated, edematous, white to pale red colored, solid, and sectioned by fibrous septa with focal abscess.

Referential findings: There are also mild suppurative bronchopneumonia and focal ulceration on the pyloric torus.

豚の舌

愛知県中央家保・動衛研つくば

標 本: 舌、10%緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物: 豚、LWD、5 日齢

臨床事項: 母豚 200 頭規模の一貫農場において、5 日齢の新生豚 1 腹に衰弱及び起立不能が散見された。提出例は病性鑑定のため安楽殺された 1 頭である。

肉眼所見: 舌尖部は暗赤色変し、断面には多発性、びまん性に白色病巣が認められた。肺においても多発性白色病巣が認められ、病巣周囲は充うっ血により赤変していた。肝臓と脾臓では、漿膜面に数個の白色病巣が認められたが、実質には著変は認められなかった。

参考事項: 細菌学的検査では、肝臓、脾臓、肺及び大脳からグラム陰性桿菌が分離された。分離株は細菌学的性状検査、*apx* 毒素遺伝子検査、16S rRNA シークエンス解析により、*Actinobacillus suis* と同定された。

Tongue of a pig

Aichi Prefectural Chuo Livestock Hygiene Service Center
National Institute of Animal Health, NARO

Section: Tongue, fixed in 10% neutral phosphate-buffered formalin, HE stain.

Animal: Pig, LWD, 5-day-old.

History: In a farrow-to-finish farm where 200 pigs are raised, a litter of 5-day-old neonatal piglets showed debilitation and anastasia. One of them was euthanized and subjected to necropsy (the present case).

Macroscopic findings: The apex of the tongue was found to be discolored dark red, and multifocal disseminated white foci were seen in its cross sections. Numerous multifocal white foci were also found in the lungs, and their surroundings had a red appearance due to hyperemia or hemostasis. Several white foci were also found on the serosa of the liver and spleen but not in the parenchyma.

Remarks: Gram-negative bacilli were isolated from the liver, spleen, lungs, and cerebrum. The isolated strain was identified as *Actinobacillus suis* using biochemical characterization, *apx* genotype profiling, and 16S rRNA sequence analysis.

犬の舌下腫瘍

宮崎大学

標本:舌下腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE染色

動物:犬、ミニチュアダックスフンド、雌、13歳

臨床事項:2018年3月、下顎舌下腫瘍の形成を主訴に来院した。腫瘍は急速に成長し、それによる口腔閉鎖困難のため、外科的摘出が実施された。

肉眼所見:腫瘍は複数の歯を覆うように舌下中心部に4.5×3.5×2.5cm大で位置し、球状で硬く、1ヵ所巣状に潰瘍と増殖部を認めた。剖面では吻背側部に小型の嚢胞が多数存在し、尾腹側部は充実性であった。

備考:標本は吻背側部の潰瘍部腫瘍を切り出したものである。

No.1233

Sublingual mass of a dog

University of Miyazaki

Specimen: Sublingual mass, 10% neutral buffered formalin, HE stain.

Animal: Dog, Miniature Dachshund, female, 13 years old

Clinical history: In March 2018, the dog was presented with an oral mass on sublingual region of rostral mandible. The mass was surgically removed due to rapid growth and difficulties in closing the mouth.

Gross findings: The mass was round and firm (4.5 x 3.5 x 2.5 cm) with a focal ulcerated surface, centrally located within the sublingual region and the growth completely covered several teeth. On cut section, the mass revealed white tissue containing multiple small cystic cavities in the rostradorsal part and solid dense surface in the cranioventral region.

Remarks: The specimen was prepared from the ulcerated area near the rostradorsal part.

犬の空腸腫瘍

東京大学

標 本:空腸、10%中性緩衝ホルマリン固定パラフィン包埋標本、HE 染色。

動 物:犬、ビーグル、雄、11 歳 9 ヶ月。

臨床経過:健康診断で消化管腫瘍を指摘され、CT 検査にて空腸の 2 箇所にも腫瘍を認めたため切除。

肉眼所見:腫瘍はいずれも嚢胞状であり、内腔に淡黄色透明粘稠な液体が貯留していた。また、一部で大網との癒着を認めた。

参考所見:腸間膜リンパ節に転移病変は見られなかった。術後 4 ヶ月で転移・再発の兆候は見られていない。

No.1234

Dog, jejunal mass

The University of Tokyo

Slide: Jejunum, 10% neutral buffered formalin-fixed, paraffin-embedded, HE stain.

Animal: Dog, beagle, male, 11 years and 9 month old.

History: Intestinal masses were detected at health checkup. A CT examination revealed that these masses were located in jejunum. Both masses were surgically removed.

Gross findings: Both masses were cystic and contained viscous yellowish clear fluid. One of the two masses was adhered to the omentum.

Referential matter: Metastatic lesion was not observed in the mesenteric lymph nodes. Four months after the surgery, there was no sign of recurrence or metastasis.

馬の空腸

JRA 総研

標本: 遠位空腸、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: 馬、サラブレッド種、雄、240 日齢

臨床事項: 発熱と疝痛を主訴とし獣医師の診療を受けたが、同症に対する一般的な治療法では良化しなかった。血液検査において血清総蛋白の軽度な低下(4.6g/dL)と、腹部超音波検査において小腸壁の肥厚が確認されたため、ローソニア感染症を疑い治療が行われたものの症状は改善せず、原因究明のため安楽殺された。

肉眼所見: 空腸および回腸壁は軽度肥厚。管腔内容物は赤色水様を呈し、粘膜面は赤色調を帯びていた。また、前腸間膜リンパ節は腫大していた。

参考所見:

腸内容におけるサルモネラ属菌の分離: 陰性

腸内容における *Clostridioides difficile* 抗原および毒素の検出: 陰性(イムノクロマト法)

回腸粘膜における *Lawsonia intracellularis* 遺伝子の検出: 陽性(PCR 法)

Jejunum of a horse

Equine Research Institute

Japan Racing Association

Specimen: Jejunum, fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

Animal: Horse, Thoroughbred, colt, 240 days old.

History: The colt had fever and colic, and common treatments for the symptoms could not improve the conditions. Blood tests revealed slight decrease of serum total protein (4.6 g/dL) and thickened small intestinal wall was observed by abdominal ultrasound. From these findings, *Lawsonia intracellularis* infection was suspected and antibiotic therapy was started, however, euthanasia was performed due to poor prognosis.

Gross findings: At necropsy, the wall of the jejunum and the ileum mildly thickened. The small intestinal contents were red and watery, and the mucosa was diffusely reddish. In addition, cranial mesenteric lymph nodes enlarged.

Reference:

Isolation of *Salmonella* from the small intestinal contents: negative

Detection of *Clostridioides difficile* antigen and toxin in the small intestinal contents: negative

Detection of *Lawsonia intracellularis* genes in the ileal mucosal tissue: positive

犬の盲腸

鳥取大学

標 本:盲腸、10% ホルマリン固定、HE 染色

動 物:犬、ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア、雄、8 歳齡

臨床事項:血便を主訴に来院、腹部超音波検査によって腸重積を疑う所見(二重丸の的(まど)様所見、いわゆる target sign)を認めた。内視鏡検査によって盲腸の反転が確認され、同部が外科的に切除された。

肉眼所見:摘出した盲腸は全長が完全反転しており、粘膜面が表層に露出していた。反転した盲腸の横断面において、盲腸壁筋層から漿膜にかけて径 6 mm 程度の不整円形腫瘤が観察された。

Cecum of a dog

Tottori University

Section: Cecum, 10% formalin fixed, HE stain.

Case: Dog, West Highland White Terrier, male, 8 years.

History: The case showed intermittent hematochezia and echogram described intussusception of intestine (so called “target sign”). Colonoscopy revealed inversion of cecum and the lesion was surgically removed.

Gross findings: The cecum showed complete inversion and mucous membrane was exposed on surface of the specimen. On the cross section, irregular round shaped mass lesion (6 mm diameter) was observed in muscular layer to serosa of the cecum wall.

ゾウの肝臓

岡山理科大学

標本: 肝臓、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: アジアゾウ (*Elephas maximus*)、雌、2 歳 10 ヶ月齢
国内繁殖個体

臨床経過: 発症より 5 日の急性経過で死亡した。跛行で発症し、第 2 病日食欲低下、鼻粘膜の貧血、嗜眠がみられた。全血検査で白血球と血小板の減少があり、生化学検査で異常は認められなかった。ゾウのヘルペスウイルス感染症を疑い、第 3 病日より抗ウイルス薬(アシクロビル)の経口投与を開始した。第 4 病日には食欲廃絶、口腔・鼻粘膜の乾燥、舌粘膜の凹凸、前夜の不眠、夕方には下顎が腫脹した。抗ウイルス薬に加え、補液、ビタミンC、微温湯の注腸を実施した。第 5 病日には舌の貧血、側頭腺や下顎の腫脹が進行し、午後より起立困難となり、抗ウイルス薬の静脈投与を開始するも死亡した。

解剖所見: 心臓、肝臓、消化管粘膜の高度の出血、下顎リンパ節などの腫脹がみられた。

The liver of an elephant

Okayama University of Science

Specimen: liver, 10% neutral buffered formalin-fixation, HE stain.

Animal: Asian elephant (*Elephas maximus*), female, 2 years and 10 months old, captive-bred in Japan.

History: This elephant died during the 5th acute course. Claudication onset, appetite decline on the second day after the onset, pallor of nasal mucosa, and lethargy were observed. A decrease in white blood cells and platelets was observed in the whole blood test. No abnormalities were found in the results of and biochemical examination. The elephant was suspected to have a herpesvirus infection, and oral administration of an antiviral drug (Aciclovir) was initiated from the third day. On the fourth day, appetite abolition, oral/nasal mucosal dryness, irregularities in the tongue mucosa, and insomnia on the previous night were noted; furthermore, the lower jaw was swollen in the evening. In addition to antiviral drug administration, replacement fluids and vitamin C were administered and enema with a low-temperature hot water. On the fifth day, anemia was observed in the tongue and the swelling of the temporal gland and the mandible progressed; by the afternoon, the elephant found it difficult to stand up. Even after further intravenous administration of antiviral drugs was performed, the elephant died.

Postmortem findings: Severe hemorrhage of the heart, liver, and gastrointestinal mucosa along with the swelling of the mandibular lymph node were observed.

ニホンザルの肝臓

岐阜大学

標本:肝臓、10%ホルマリン固定、HE染色

動物:ニホンザル(*Macaca fuscata*)、雌、推定21歳

臨床事項:本症例は某研究施設で飼育されていたニホンザルで、飼育ケージ内でふらつきを認めため隔離された。手の震えも見られ、元気も消失していた。第2病日に実施された血液検査では、AST(197 IU/L、基準値 32.2 ± 12.4 IU/L)、ALT(140 IU/L、基準値 37.7 ± 17.7 IU/L)、 γ GTP(693 IU/L、基準値 91.5 ± 20.7 IU/L)、ALP(3500 IU/L、基準値 586.0 ± 476.0 IU/L)の高値、血清総タンパク質(5.8 g/dl、基準値 7.5 ± 1.1 IU/L)および血清アルブミン(1.8 g/dl、基準値 3.6 ± 0.6 IU/L)の低値が認められた。抗生剤、グルタチオン製剤、グリチルリチン酸配合剤の投与等を行ったが状態は改善せず、第3病日には意識レベルが低下し、第4病日に予後不良と判断され、安楽殺された。剖検は研究施設の獣医師により実施され、採材された臓器の病理診断は岐阜大学で行われた。

(血液生化学検査の基準値として、当該研究施設のニホンザルから得られた51~284サンプルの平均値±標準偏差を示した。)

剖検所見:外貌検査で黄疸が認められた。肝臓では、全域において直径1~3 cmの黄白色腫瘤が多発し、腫瘤は癒合しつつ、正常な肝臓組織を置き換えていた。剖面では、腫瘤は中心部が空洞化し、黄色透明の液体を容れていた。肺では、右上葉および左下葉において直径5 mm以下の白色腫瘤が数個認められた。大腸には、灰色泥状の内容物が充満していた。

参考所見:肺腫瘤の組織像も肝臓腫瘤の組織像と同様であった。組織学的に腸間膜リンパ節および心臓右心房壁においても同様の病変が観察された。

Liver of a Japanese macaque

Gifu University

Specimen: Liver, fixed in 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

Animal: Japanese macaque (*Macaca fuscata*), female, around 21 years old

History: A female Japanese macaque had been housed at a research institute in Japan from the age of around 7 years, for over 14 years. The macaque exhibited an unsteady gait and tremors in her hands. The serum chemistry revealed significant elevations of AST (197 IU/L, reference value* 32.2 ± 12.4 IU/L), ALT (140 IU/L, reference value* 37.7 ± 17.7 IU/L), γ GTP (693 IU/L, reference value* 91.5 ± 20.7 IU/L), ALP (3500 IU/L, reference value* 586.0 ± 476.0 IU/L) levels and decreases in TP (5.8 g/dl, reference value* 7.5 ± 1.1 IU/L), ALB (1.8 g/dl, reference value* 3.6 ± 0.6 IU/L) levels. Despite treatment with rehydration, hepatoprotective agents, and antibiotics, the macaque became comatose on the third day and was humanely euthanized the following day.

*Mean values (mean \pm s.d., n=51-284) from the accumulated data of Japanese macaques at the research institute.

Gross findings: On external examination, cutaneous jaundice was apparent. Multiple yellowish-white coalescing nodules of various sizes (approximately 1 to 3 cm in diameters) were distributed throughout the liver and replaced a substantial portion of the hepatic parenchyma. On the cut surface, cavitated nodules containing clear yellow exudates were frequently found. Some white nodules less than 5 mm in diameter were identified in the upper right and lower left lobes of the lungs. Pleural and peritoneal effusions were also noted. The large intestine contained gray-colored muddy contents.

Additional findings: The pulmonary nodules had the similar histological appearance to that of the hepatic nodules. The similar histological lesions were also observed in the mesenteric lymph node and the cardiac interstitium in the right atrial wall.

ブタの腎臓

一般財団法人日本生物科学研究所

標本:腎臓、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物:ブタ、去勢雄、100 日齢 (30 kg)

臨床事項:母豚 270 頭規模の養豚場において、各ロットに発育不良豚が散見された。本症例は高度な発育不良で予後不良と判断され、病性鑑定に供された1頭である。他の発育不良豚には発咳や腹式呼吸などの呼吸器症状も認められた。

肉眼所見:乳房の皮膚に暗赤色斑が見られた。腎臓断面に点状出血が認められた他、胸水および腹水の中等度増量、肺の一部に拡張不全、全身リンパ節の中等度～高度腫大などが観察された。

Kidney of a pig

Nippon Institute for Biological Science

Specimen: Kidney, fixed in 10% neutral buffered formalin, HE stain.

Animal: Pig, castrated male, 100-day-old (30 kg).

History: In a 270-sow farm, there was an increase in growth retardation in growing pigs of some lots. The presented case was one of euthanized pigs due to poor prognosis with severe growth retardation. Respiratory symptoms such as coughing and abdominal breathing were observed in other euthanized pigs.

Gross findings: Dark-red spots were found in the breast skin and petechial hemorrhages were present on the cut surface of kidneys. Pleural and ascites fluids were moderately increased. Focal atelectasis of the lung and enlargement of lymph nodes throughout the body were also found.

牛の腎臓

動衛研北海道・岩手県南家保

標本:腎臓, 10%中性緩衝ホルマリン固定, HE 染色

動物:牛, 黒毛和種, 去勢雄, 2 歳

臨床事項:黒毛和種一貫生産農場において, 肥育牛1頭が食欲不振, 起立困難, 泥状血便の排泄および後肢浮腫を呈した。血液生化学検査では著しい腎機能の低下(BUN:170 mg/dL, Cre:16.2 mg/dL)が示唆され, 臨床獣医師による補液等の治療によって元気および食欲は回復した。しかし, 再度の血液生化学検査で腎機能の改善が認められなかったため, 予後不良として原因究明のため病性鑑定に供された。尿検査では, 尿蛋白陽性を示した。

肉眼所見:腎臓は左右とも腫大(23×9 cm)および退色し, 表面は粗造化していた。肝臓では右葉および尾状葉に被包化膿瘍が形成され, 肺では左右前葉が暗赤色から灰白色を呈し硬結感が認められた。

No.1240

Kidney of a steer

National Institute of Animal Health, Hokkaido Research Station
Iwate Prefecture Southern Regional Livestock Hygiene Service Center

Specimen: Kidney, fixed in 10% neutral buffered formalin, H&E stained

Animal: Cattle, Japanese Black, castrated male, 2 years old

History: A fattening steer in a Japanese Black cattle farm showed anorexia, dysstasia, excretion of muddy feces mixed with blood, and edema of the hind limbs. Remarkable decrease of renal function was suggested when blood was examined biochemically (BUN: 170 mg/dL, Cre: 16.2 mg/dL). The steer received fluid therapy and recovered from loss of appetite and depression. On the other hand, improvement of renal function was not observed when blood was re-examined biochemically. The steer was necropsied to investigate the cause of the illness because of its poor prognosis. Proteinuria was seen in a urine test.

Gross findings: Both kidneys were pale and enlarged (23 × 9 cm), and exhibited rough surfaces. Encapsulated abscesses were observed in the right and caudate lobes of the liver. Right and left cranial lobes of the lung were hard and dark red to gray in color.

ブタの膀胱

東京農工大学

標 本:膀胱、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動 物:ブタ、雌繁殖豚、年齢不明

臨床事項:本例は、食肉衛生検査所に搬入された症例である。

肉眼所見:膀胱壁に径約 5 mm 大の乳頭状、のう胞状あるいは気腫状の腫瘤を多数認めた。一部は出血あるいはうっ血により暗赤色調を示していた。固定後の腫瘍の断面では、粘膜下にのう胞状の空隙が散見された。

参考所見:剖検時に、脾臓のうっ血が認められた。

No.1241

Urinary bladder of a pig

Tokyo University of Agriculture and Technology

Section: Urinary bladder, fixed in 10 % neutral buffered formalin, HE stain.

Animal: A pig (*Sus scrofa*), breeding female, unknown age.

History: The pig was carried into a meat inspection center.

Gross findings: Many papillary, cystic or emphysematous masses (approximately 5 mm in diameter) were observed in the urinary bladder. Some of them exhibited red color due to hemorrhage and congestion. Several submucosal cyst spaces were seen in the cut surface of the masses after fixation.

Additional findings: At necropsy, congestion of the spleen was found.

イヌの頸部皮下腫瘍

摂南大・薬・病理

標本: 頸部皮下腫瘍、10%中性緩衝ホルマリン固定、HE 染色

動物: 犬、ミニチュアシュナウザー、避妊雌、11 歳齢

臨床事項: 左頸部皮下に腫瘍を触知したため、近医を受診し切除した。腫瘍は境界不明瞭で周囲組織との固着が重度だった。

肉眼所見: 頸部皮下組織に認められた 50 x 50 x 30 mm の灰色腫瘍で、周囲組織と癒着していた。腫瘍は弾性硬で、断面では灰色充実性であった。

No.1242

Cervical subcutaneous mass of a dog

Setsunan univ.

Section: Cervical subcutaneous mass fixed in 10% neutral buffered formalin, HE stain.

Animal: A female miniature schnauzer, 11-years-old.

History: The dog presented with subcutaneous mass in left submandibular area. An mass was ill-defined and severely adhered to surrounding tissues.

Gross findings: A gray mass measured 50 x 50 x 30 mm, was adhered to surrounding adipose tissue. The cut surface of the mass was solid and firm, and gray in color.

犬の頸部皮下腫瘍

北里大

標本: 頸部皮下腫瘍、10%リン酸緩衝ホルマリン液固定、HE 染色

動物: 犬、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル、雄、7歳

臨床事項: 左下顎領域に孤在性、弾性硬の充実性腫瘍 (5.5 × 4 × 4 cm) が認められ、北里大学附属動物病院を受診。この腫瘍は受診8ヶ月以上前から存在していたが、臨床症状はみられなかった。腫瘍と下顎リンパ節が外科的に摘出され、ホルマリン材料が当研究室に送付された。

肉眼所見: 出血と壊死を伴う白色から褐色の境界明瞭な多結節性腫瘍が観察された(Fig. 1)。腫瘍の辺縁には、下顎腺と耳下腺様構造が確認され、これらは腫瘍によって圧迫されていた。

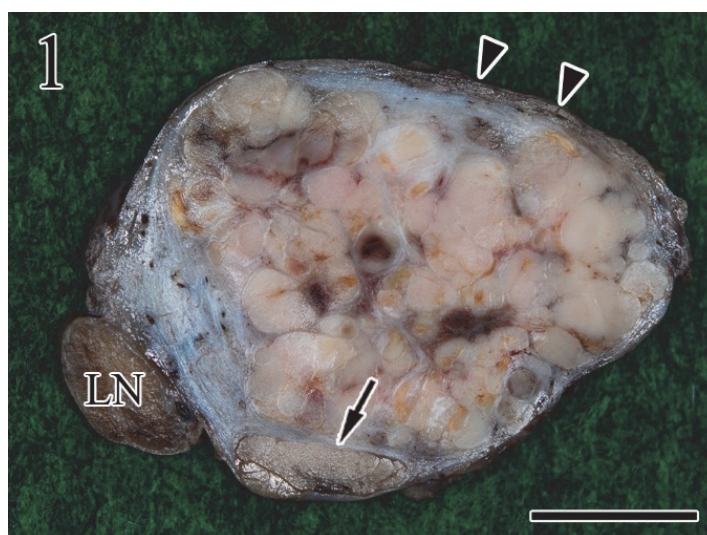


Fig. 1: 出血と壊死を伴う白色から褐色の境界明瞭な多結節性腫瘍が観察される。矢印: 下顎腺, 矢頭: 耳下腺, LN: 下顎リンパ節, Bar, 2cm.

Canine Cervical Subcutaneous Mass

KITASATO University

Section: Cervical subcutaneous mass on left side, fixed with 10% neutral-buffered formalin, HE stain.

Animal: cavalier King Charles spaniel, male, 7 year-old.

History: This dog was presented to the KITASATO University Veterinary Teaching Hospital with a single, firm, round mass located in the submandibular area. According to the owner, the mass had been first noticed 8 months earlier and was gradually increasing in size. The dog was otherwise healthy and there were no clinical signs associated with the mass. The mass (5.5 × 4 × 4 cm) was excised surgically together with the submandibular lymph node and submitted for histopathological examination.

Gross findings: The cut surface of the lesion was formed of multiple well-circumscribed, white to brown nodules with necrosis and hemorrhage (Fig. 1). Grossly, a submandibular and a parotid salivary gland were compressed by the mass.

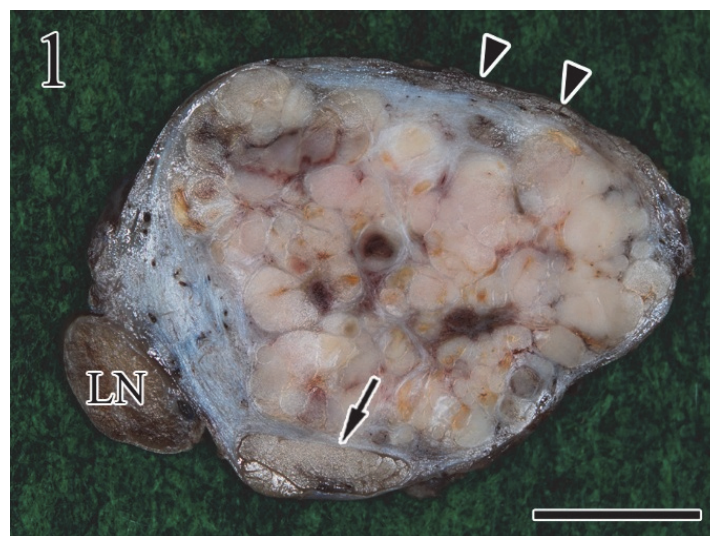


Fig. 1. Well-circumscribed, multinodular, subcutaneous mass with necrosis and hemorrhage. Note the submandibular salivary gland (arrow), parotid salivary gland (arrowheads) and submandibular lymph node (LN). Bar, 2 cm.

JCVP スライドフォーラム(獣医病理学研修会)開催要領申し合わせ

(平成 22 年 3 月 27 日改正)

(平成 28 年 3 月 29 日改正)

(平成 30 年 3 月 28 日改正)

1. 出題について

- 1) 1 回の出題総数は原則 25 題を上限とする。ただし JCVP 学術集会ごとに上限を設定し、下記の要領に従い出題公募してもよい。
- 2) 下記の 23 機関は優先的に出題できる。ただし、引き続き3年間出題しなかった場合は優先権を失う。
帯広大、酪農大、北大、北里大、岩手大、東大、農工大、日獣大、麻布大、日大、岐阜大、大阪府大、鳥取大、山口大、宮崎大、鹿児島大、動衛研・つくば、動衛研・支所、日生研、JRA 総研、LSI メディエンス、摂南大、残農研。
- 3) 公募出題機関の要件は、原則として JCVP 会員を2名以上有する機関または研究会などの組織とする。出題希望が設定された上限を上回る場合は、研修会ごとに、出題機関を決定し、JCVP 理事会の承認を得る。
- 4) 1 出題機関からの標本提出枚数は 65 枚(破損分 5 枚を含む)とする。

2. 標本の配布について

- 1) 上記 1-2) 優先機関 23 機関と、1-3) の出題機関には無料で配布する。
- 2) 上記 2-1) 以外の機関には有料(1セット3万円)で配布する。
有料配布(約 35 セット)は原則として JCVP 会員を2名以上有する機関から公募する。
希望が多い時は申し込み順に従い配布する。

3. 研修証の発行について

- 1) 研修会参加者の内、希望者には JCVP 名で研修証を発行する。

獣医病理学研修会のあゆみ

回	年月日	標本番号	出題数	世話機関	会場
1	1961.4.1	43478	13	北大	家衛試
2	1962.4.5	14-29	16	東大	東大
3	1963.4.10	30-43	14	家衛試	家衛試
4	1964.4.8	44-58	15	麻布大	家衛試
5	1965.4.8	59-73	15	日大	日大
6	1966.4.4	74-89	16	日獣大	日獣大
7	1967.4.8	90-103	14	農工大	農工大
8	1968.4.8	104-120	17	北大	エーザイ
9	1969.4.7	121-137	17	家衛試	家衛試
10	1970.4.1	138-152	15	東大	エーザイ
11	1971.4.4	153-166	14	麻布大	エーザイ
12	1972.4.5	167-182	16	日大	日大
13	1973.4.5	183-199	17	農工大	農工大
14	1974.4.10	200-218	19	日獣大	日獣大
15	1975.4.6	219-232	14	東大・医科研	医科研
16	1976.4.6	233-253	21	北大	医科研
17	1977.4.1	254-274	21	家衛試	医科研
18	1978.4.2	275-294	20	麻布大	医科研
19	1979.4.2	295-315	21	農工大	日大
20	1980.3.26	316-336	21	日大	医科研
21	1981.4.6	337-357	21	日獣大	日獣大
22	1982.4.1	358-378	21	北大	医科研
23	1983.4.1	379-399	21	東大	医科研
24	1984.4.6	400-422	23	家衛試	医科研
25	1985.4.1	423-444	22	麻布大	医科研
26	1986.4.3	445-465	21	日大	日大
27	1987.4.2	466-486	21	帯畜大・日大	日大
28	1988.3.31	487-505	19	酪農大・日獣大	公衆衛生院
29	1989.3.31	506-522	17	北里大・日競研	北里大
30	1990.10.1	523-542	20	岩手大	岩手大
31	1991.10.15	543-562	20	宮崎大	宮崎大
32	1992.10.1	563-582	20	岐阜大	岐阜大
33	1993.9.29	583-608	26	北大	北大
34	1994.10.4	609-630	22	山口大	山口大
35	1995.9.4	631-656	26	北里大	北里大
36	1996.11.9	657-682	26	鳥取大	鳥取大
37	1997.8.28	683-707	25	帯広大	幕別温泉ホテル緑館

38	1998.10.9	708-733	26	鹿児島大	鹿児島大
39	1999.8.20	734-760	27	酪農大	酪農大
40	2000.10.12	761-785	25	化血研・摂南大	熊本国際交流会館
41	2001.10.6	786-809	24	大阪府大	大阪府大
42	2002.10.8	810-833	26	岩手大	つなぎ温泉ホテル紫苑
43	2003.9.18	834-857	22	岐阜大	岐阜大
44	2004.10.2	858-878	21	北里大	奥入瀬溪流グランドホテル
45	2005.3.29	879-905	27	理化学研究所	和光市民文化センター
46	2006.3.21	906-927	22	日生研	エポカルつくば
47	2007.4.3	928-949	22	動衛研	エポカルつくば
48	2008.3.28	950-972	23	麻布大	麻布大
49	2009.4.2	973-996	24	JRA総研	栃木県総合文化センター
50	2010.3.26	997-1021	25	日獣大	日赤看護大
51	2011.9.20	1022-1045	24	農工大	大阪府大りんくうキャンパス
52	2012.3.27	1046-1069	24	麻布大	大宮ソニックシティ
53	2013.3.28	1070-1094	25	東大	東大駒場キャンパス
54	2014.3.29	1095-1118	24	岩手大	麻布大
55	2015.3.27	1119-1144	26	宮崎大	大阪府大
56	2016.3.29	1145-1168	24	帯広大	三鷹市公会堂
57	2017.3.30-31	1169-1194	26	鹿児島大	タワーホール船堀
58	2018.3.29-30	1195-1219	25	酪農大	いわて県民情報交流センター アイーナ
59	2018.3.28-29	1220-1243	24	ACVP 日本人会	ルミエール府中

第 14 回から座長制、第 15 回から日本獣医学会病理分科会主催、第 27 回から全機関が順番に世話機関、第 30 回から秋季に開催、第 33 回から出題機関の拡大および研修証発行、第 44 回から春季日本獣医学術集会プログラムの 1 セッションとして開催、第 51 回は東日本大震災の為、秋に開催。第 54 回から JCVP 学術集会に含め春に開催。

獣医病理学研修会への近年の年度別出題状況

出題機関	第 51 回	第 52 回	第 53 回	第 54 回	第 55 回	第 56 回	第 57 回	第 58 回	第 59 回
優先出題機関									
帯広大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
酪農大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
北里大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岩手大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
農工大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日獣大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
麻布大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岐阜大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪府大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鳥取大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
山口大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
宮崎大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
鹿児島大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
動衛研・北海道支所	—	—	○	—	—	○	—	—	○
動衛研・小平	—	—	—	○	—	—	○	○	—
動衛研・つくば	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日生研	○	○	○	○	○	○	○	○	○
JRA 総研	○	○	○	○	○	○	—	○	○
LSIメディエンス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
摂南大	○	○	○	○	○	○	○	○	○
残農研	○	○	○	○	○	○	○	○	—
公募出題機関									
住化テクノ	○								
安評センター			○		○				
マルピー・ライフテック		○							
参天製薬					○		○		
動衛研・九州					○				
動衛研・東北	○								
ACVP 日本人会 (JaGA)		○	○	○	○	○	○	○	○
ノースラボ							○	○	
みどりの獣医病理研究会							○		
岡山理科大									○

招聘出題機関

韓国

タイ

インドネシア

○:出題、-:出題なし

発表者の皆様へ

第 59 回獣医病理学研修会より、発表症例の記録・記事を JCVP のホームページで管理することになりました。つきましては今回の研修会で発表された症例の記録・記事については、下記の原稿記載要領に従い原稿を作成いただき、原稿締め切り日(2019 年 9 月末日)までに JCVP 事務局までに送付いただけますよう、発表者の皆様をお願い申し上げます。

原稿記載方法

標本番号、表題、提出機関を別にして、一題あたり本文は約 1,000 文字とします。

項目は原則として動物(動物種、品種、性別、年齢の順)、臨床症状、剖検所見、診断、考察、参考文献に大別します。文章の最後に文責者を記載して下さい。

テキスト保存したファイルをメールまたは CD-R 等により提出ください。

なお著作権管理等の観点より図は掲載いたしません。

原稿の送付先

原稿は以下に送付いただけますようお願い致します。

JCVP 会員管理業務担当事務局

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-12 株式会社アイペック

JCVP 会員管理担当:大川 忠司

TEL:03-6822-9767(直通)03-5978-4067(代表)

E-mail: jcvp@ipec-pub.co.jp

研修会当日の質問用紙(コピーしてお使い下さい)

標本番号: _____ に対する質問書

1. 臨床事項について

2. 所見について

3. 診断について

(この用紙は受付に備えてある意見箱に該当演題が始まる 30 分前までに投函してください)

----- (キリトリ線) -----

研修会当日の質問用紙(コピーしてお使い下さい)

標本番号: _____ に対する質問書

1. 臨床事項について

2. 所見について

3. 診断について

(この用紙は受付に備えてある意見箱に該当演題が始まる 30 分前までに投函してください)

四国動物医療センター



香川県木田郡三木町池戸3308-5

TEL (087) 864-4060

動物病理カラーアトラス 第2版

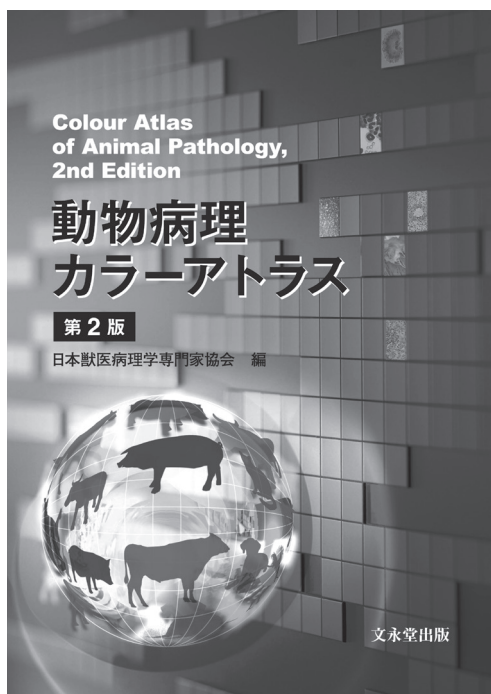
Colour Atlas of Animal Pathology, 2nd Edition

日本獣医病理学専門家協会 編

The Japanese College of Veterinary Pathologists (JCVP)

1990年に『獣医病理組織カラーアトラス』が上梓され、2007年には症例を追加し、肉眼写真も加えた『動物病理カラーアトラス』が出版されました。いずれも精選された写真と的確な説明文からなり、動物の病理学を初めて学ぶ学生諸君ばかりでなく、日本獣医病理学専門家協会（JCVP）の会員資格試験受験を目指す諸氏、獣医病理学の指導的立場にある中堅の研究者に至るまで幅広い層に利用されてきました。『動物病理カラーアトラス』の出版からすでに10年が経ち、獣医病理学の教科書やアトラスで取り上げるべき病気もだいぶ変わってきました。この度改訂した本版では、確実に学ぶべき基本的な病変については前版のまま、あるいは若干手を加えて掲載していますが、近年新たに問題となった感染症や品種特異的疾患などについては新しく項目を設け書き下ろしました。（「序」より一部抜粋）

略目次：第1編 脈管系（心（囊）膜，心外膜の病変／心内膜の病変／心筋の病変／心臓の腫瘍／血管の病変），第2編 造血器，リンパ性器官（骨髄の病変／リンパ節，脾臓の病変／胸腺の病変／ファブリキウスの病変），第3編 呼吸器系（上部気道の病変／肺の病変／気嚢の病変），第4編 消化器系Ⅰ - 口腔，消化管 -（口腔の病変／食道の病変／胃の病変／腸の病変），第5編 消化器系Ⅱ - 唾液腺，肝臓，膵臓 -（唾液腺の病変／肝臓の病変／膵臓の病変），第6編 泌尿器系（腎臓の病変／膀胱の病変），第7編 生殖器，乳腺（雄性生殖器の病変／雌性生殖器の病変／胎盤の病変／乳腺の病変），第8編 神経系（中枢神経系の病変／末梢神経系の病変），第9編 感覚器（眼科の病変／耳道の病変），第10編 内分泌系（下垂体の病変／甲状腺の病変／上皮小体の病変／副腎の病変），第11編 運動器系（骨の病変／関節の病変／骨格筋の病変），第12編 皮膚・軟部組織（皮膚の病変／軟部組織の病変）。



B5判・340頁

定価（本体 17,000 円＋税） 送料 432 円

ISBN 978-4-8300-3268-4

- 約 1,160 点の肉眼および組織写真を掲載
- 60 名のエキスパートにより解説された最新の情報
- 獣医師国家試験，JCVP 会員資格試験に必携の 1 冊

 文永堂出版

〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-27-18
<https://bun-eido-shuppan.com>

TEL 03-3814-3321
FAX 03-3814-9407